

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600116	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	株式会社 エイジサービス		
事業所名	グループホーム いずみ別荘2		
所在地	(245-0016) 横浜市泉区和泉町4888-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	R4 9/10	評価結果 市町村受理日	令和5年3月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特に力を入れている事は「散歩」です。春夏秋冬、コロナ禍であっても毎日散歩に出かけます。日の光を浴び、外気に触れ、四季折々のお花や風を感じられる散歩の時間はとても有意義な時間と考えます。夏の暑い時期は、比較的涼しい時間帯である朝8時頃より散歩に出かけます。一日に一度全員が日の光を浴びられるよう支援しています。昨年より外国人特別技能実習生を一人受け入れています。業務を真面目に取り組み、日本語も堪能でご入居者にとっても可愛がられています。コロナ禍である現在の面会方法ですが、LINEを使ったオンライン面会とホーム内ウッドデッキを利用し距離を取った面会と二通りの面会方法を用意しています。コロナ禍でも会って話せる機会を作りたいと考えています。最後に感染対策ですが、ご入居者4回目コロナワクチンは全員接種済みです。職員の体調に違和感なくとも、なにか少しでも不安がある場合は勤務前に抗原検査を行い、陰性を確認してから勤務に入るようにしています。ご家族、職員の協力があり、ご入居者のコロナ感染者はでっておりません。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年10月25日	評価機関 評価決定日	令和4年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームは、相鉄いずみ野線「いずみ野」駅からバスで金子山バス下車、徒歩4分ほどの場所にあります。環状4号線沿いで道路の向かい側には自動車用品大手の量販店があります。付近には幼稚園や果樹園、畑、ターゲットボードゴルフ場がある森などがあり、自然豊かな環境の中にあるホームです。

<優れている点>

悪天候日以外、暑さ寒さ対策を図り、毎日できるだけ全員、散歩をしています。暑い夏はサマータイムの8時頃の早めの散歩をしています。散歩を継続することで体力・健康の維持、季節・外気を感じリフレッシュ、近隣の方や職員とのゆったりしたおしゃべりで笑顔と、多くの力を付けることが散歩の重要性を感じ実施に取り組んでいます。食事作りは、委託業者から毎日食材が届き、職員が調理、味付けをしています。フロアごと入居者の好みに応じ味付け、調理方法を工夫し提供しています。入居者にとって第一に楽しみな食べることを大切に、外食のテイクアウト、昼レクリエーション、行事食などを取り入れて、職員全員、入居者も調理補助や役割を持ち一緒に様々な取り組みを行っています。

<工夫点>

入居者一人ひとりに話しかけ、一人きりにしない支援に努めています。和気あいあいとした雰囲気の中、笑顔で過ごせるケアを心がけています。散歩中も会話や歌で声がけし支援しています。また食前の口腔体操や食後のラジオ体操第一・第二などの運動も毎日実施し、健康の維持に配慮した活動に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム いずみ別荘2
ユニット名	つる

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input checked="" type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員一人一人が入居者の思いに寄りそい、関わるケアをすることで入居者、家族、職員の満足度が深まり、理念に繋げている。	ホームの理念「いずみ別荘2では一人一人の人格やその方が出来ることを尊重し地域資源をいかしながら笑顔で過ごせるホーム作りを目指します」は職員が入居者支援に対する思いを話し合い決めています。理念は玄関ホールや事務室内に掲示され、職員は入職時に学んでいます。	理念はホーム内に掲示されていますが、A4版の用紙に法人理念等と共に記載されているため文字が小さく目立たない状況です。目立つ形での掲示と共に職員への定例的な研修の実施が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しているが、コロナ禍の為積極的な活動は自粛しているが、散歩中に少し会話をしたり、収穫した作物を頂いたり、自粛した活動の中で交流を深めている。	自治会に加入しています。新型コロナ禍以前は地域の情報を回覧板等で把握して、地域行事のお茶会や夏祭りなどに積極的に参加し交流を深めて来ましたが、現在はコロナ禍の為行事はほぼ中止になっていますが、敬老の日には入居者に記念品の配布があり連携しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在はコロナ禍の為できていないが、コロナ禍以前は避難訓練や運営推進会議、ホーム行事等に参加していただき、認知症への理解や支援方法等伝えていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、書面開催にて行っている。参加メンバーに書面を送り、意見要望を真摯に受け、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は書面で隔月実施しています。活動状況報告書を、自治会長、入居者家族、ケアプラザ職員に送り、意見や質問を聞き、ファックスやメールでやり取りしています。特に新型コロナウイルス対策についてはホームでの取組み状況を詳しく報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認定更新の機会等に利用者の様子やニーズを伝え、アドバイスを頂いたりします。	泉区役所高齢福祉課とは介護保険の更新手続きなどで出向き、連携を図っています。新規入居者の件で、家族と地域ケアプラザ間の調整が必要となり、本人の居住地の戸塚区役所の担当課と相談し協力して課題解決した事例など、行政と良好に連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	コロナ禍の為、内部研修の機会を設け自己診断アンケート等活用し、身体拘束についての理解を深め、月に一度のユニット会議にて職員間で確認し、利用者一人一人の癖や傾向を掴み、共有していくことで実践に活かしている。	交通量の多い道路に面しているため安全確保などのために、玄関は施錠しています。また、コロナ対策で1,2階の階段に続くドアは施錠し、職員の移動も禁止しています。「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」は隔月実施し、職員は身体拘束等をしないケアに取り組み実践しています。	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」は書面開催の運営推進会議で実施されていますが、コロナ禍が長期化する中で、職員の日々のケアに活かされる委員会の運営方法の見直しが期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議で虐待防止法等の理解を深める話し合いをしている。職員間で虐待に対してや業務にストレスを感じていないか等のチェックを相互チェックしている。余裕をもったケアが出来るよう業務変更も度々行っている。	入居者支援について毎月のユニット会議で話し合い、個々のケースごと具体的に虐待防止の理解を深めています。不適切な言動があった際は、管理者やケアマネジャー、ユニットリーダーが直ちに指導していません。虐待防止の外部研修に今年度は参加できていません。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修にて学ぶ機会を作り、実際に利用されている方がいれば、入居時にフロア全体で内容共有するにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用料金、重度化、看取り、医療体制等詳しく説明し、理解をしていただいた上で契約していただくようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し意見や苦情などをいれてもらえるようにしている。またご家族来荘時、お話しできるような声をかけさせてもらっている。	コロナ禍が続く家族のホームへの入室を制限せざるを得ない状態が続いています。家族の意見・要望は電話で受けるケースが多く、寄せられた意見・要望はユニット会議などで共有して対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニット会議を開き、職員からの意見聞き、話し合いを繰り返し、改善点や変更点を見つけ、運営に反映させている。	毎月ユニット会議を行っています。会議では、職員体制変更に伴う業務内容の見直しや入居者の支援内容について活発な意見交換を行っています。家族との面談にウッドデッキを利用し、離れてはいますが直接顔を合わせて入居者と面談するなど職員の提案を取り入れています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすくなければ、良いサービスが提供できないとの考えから、相談や体調等を考慮した勤務調整を行い、職場環境がよくなるよう努めている。	ホーム長は職員の残業や有給休暇の取得に気を配り勤務状況を把握しています。日中に、二人体制勤務日ができる為、業務内容の分担を職員も交えて話し合い、散歩や入浴支援がスムーズに行えるよう支援体制を見直すなど、働きやすい職場づくりに努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	未経験の方には研修期間を設け、介護に慣れてから業務に入れるよう支援している。新しいスタッフには職員が付き教えらるる環境を作っている。外部研修に行く機会を設け、その内容を内部研修にてホーム全体で共有できるようにしている。	ホーム長は認知症ケアマニュアルを自ら作成し、新入職員の研修に活用する準備を進めています。また、ホームは福祉支援5年以上の経験者が大半で、資格取得研修も進めています。今年はコロナ禍で外部研修への参加が難しく課題となっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ過の為、現在は自粛しているが同法人内のホームから行事や業務に関しての情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話す機会を多くとる様にし、不安等減らせるように傾聴や会話をし、信頼関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が求められているものを理解し、常に連絡を取る様にして、ホームで対応できることがあれば積極的に取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の思いを伺い、可能な限り尊重し柔軟な対応を取れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	無理の無い範囲で出来る事を職員と共に行ったり、想いを共感し、その想いに沿ったケアを行い、良い関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の気持ちやホームでの実生活の情報共有し、共にご本人を支えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙のやり取りで、お互いの近況報告などできるよう支援し、関係が途切れないように努めている。	馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援してきましたが、長引くコロナ禍で状況が大きく変化しています。来訪者の受け入れ、また入居者の外泊などは中止を余儀なくされています。手紙の代筆や電話の取り継ぎを通して馴染みの関係が継続出来るよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で会話ができるよう、職員が間に入って話題を提供したり、レクリエーション等を通し、楽しみを一緒に共有できる関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の事業所に移られた場合でもケアプランや支援状況を手渡すと共に支援内容で注意が必要な点など伝え、常に連携がとれるよう心掛けています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や表情などから汲み取ったり、ご家族から情報を得る様にしている。	入居者の思いや希望は基本情報やアセスメント、生活歴から、また日々の関わりの中で把握しています。意思疎通の困難な入居者にはまず、サービスを提供し表情から組み取ったり、家族の情報から把握しています。支援時は必ず本人の意向を確認し意思決定支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活環境や暮らしを知り、日常の生活から新しい情報を得て、マイペースな生活に繋がられるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズムや表情、定時バイタル、排泄表等の記録を細かく記録し、把握するよう務め、その方がいい状態でいられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の意向や家族の思いを日々のかかわりの中から汲み取り、3か月毎にケアプランを皆で見直し、介護計画に反映し作成しています。	介護支援専門員は、入居者や家族の意向と現状の把握をしています。訪問医など関係者の情報とホーム長と職員が参加する会議で、入居者の課題とサービス内容を検討し、計画書を作成しています。3ヶ月6ヶ月毎に見直し、現状に適した内容の確認をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子や職員の気づき、状態変化等記録し職員間で共有しケアでの対応に活かしている。申し送りノートを使い職員間で密に共有することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ過にて面会の仕方を変え、オンライン面会やウッドデッキを使用し距離を空けた面会など、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ過の為、積極的な関わりは自粛しているが、自治体に参加し回覧板や掲示板にて近隣情報得たり、市事業による給付オムツ等、介護保険外の情報も把握するよう努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際に診療情報提供書を提出してもらい、以前からの医療を変わらず提供できるようにしている。必要に応じ外部受診にも行き、ご本人の納得できる医療を行えるよう努めている。	ホームの訪問医、訪問歯科が月2回、眼科医が2ヶ月毎に診察・治療・処方・指導等、訪問看護師が週1回、状態観察・処置・助言をしています。協力病院との24時間連携体制や提携病院への他科受診、かかりつけ医の継続受診など適切な医療を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日ごろの健康管理での相談、助言、対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下などを防ぐために医師と話し合いや相談をし、事業所で対応可能になったら速やかに退院できるようアプローチしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員と家族で連携をとり、納得した最期が迎えられるように随時意思確認をしながら取り組むよう努めている。	入居時に「終末期医療・重度化した場合における看取りの指針」を説明しています。医師・本人・家族・職員と医療行為をせず、施設でできる看取り介護を話し、同意を得て、看取りプランに基づき支援しています。職員は情報共有し穏やかな最後を迎えられるよう支援しています。	住み慣れたホームで、穏やかに最期を迎えられるよう職員が一生懸命看取り支援を行っています。その代償として職員研修の実施など加算要件を確認の上、申請に取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急時の初期対応、応急処置の仕方や準備等、ユニット会議を通し話し合いをしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍の為、地域住民+消防署の協力は自粛している。独自で避難訓練を行っているが、訓練前に消防署にて計画書を確認してもらっている。	「防災及び非常災害時対応マニュアル」を作成しています。「消防訓練計画書」に基づき、年2回、避難訓練を実施し、振り返りをしています。居室扉にシールを活用し安否確認をしています。地域の方の避難者の見守りなどの協力はコロナ禍で実施していません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助が必要な時は本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアや自己決定しやすい言葉掛けを心掛けている。	「利用者中心の支援・サービスとは」の研究で、個人の尊重保持、目線を合わせるなど非言語、対応の大切さなど、履修し実施しています。不適切な支援について会議で話し合い、支援時は、自尊心に配慮した声かけや対応を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、選択肢を提案して一人一人の利用者が自分で決める場面を作ること心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それぞれのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛け、その日の様子をみながら、希望を尋ねたり、相談しながら寄り添った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人のこだわりやスタイルを把握し、その人らしさを保てるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、片付け等、入居者と共に行い、楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。食事を一日の大切な活動の一つにしている。	入居者が調理補助、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなど得意なことを役割に持ち、行っています。昼食レクリエーションでは、入居者の希望の献立を職員が食材購入、調理、提供し楽しんでいます。夏祭りでは屋台風になんか食べ物を提供し、自分の好きな物を食べるなど食が楽しめるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	月初めに体重を測り、毎日の水分、食事量を記録し、一人ひとりの好みや硬さ、量を見極めて勧めるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声掛けや、介助が必要な方には歯ブラシやガーゼ等使用し介助しています。定期的に訪問歯科から指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレの間隔が開いていれば声掛けしたり、日ごろの間隔を把握し、失敗を極力減らしていけるよう努めています。	排泄後に排便や失敗の確認をし、立ち上がりを見て誘導しています。排泄パターンに応じた声かけ誘導など自立排泄に向けた支援をしています。夜間はポータブルトイレや見守りセンサー、L字柵を設置し、安全な環境で自立排泄を図っています。会議で個別の排泄対応など話し合い、向上に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝の牛乳、毎日の体操や散歩を生活習慣に組み込み、排泄を促し、夏場は特に水分を多めに摂ってもらえるよう努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望や体調に合わせて、同性介助も取り入れています。個々に合わせた支援に努めています。	入浴は時間を充分に取れるよう配慮しています。体調、入浴拒否、曜日・時間変更、同性介助、職員二人対応など、個別に合わせた柔軟な支援に努めています。入浴剤の使用や湯温調節などにも配慮しています。着替えの準備も職員と利用者が一緒に行っています。入浴時の1対1のおしゃべりも楽しめるよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や下肢の浮腫防止の為、臨機応変に臥床時間を支援し、夜間寝付けない方には傾聴や飲み物等で安心していただけるよう支援し、日中の活動を増やせるよう見直したりし努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効能がすぐわかるようアルバムにしています。服薬時はダブルチェックや声出し確認を行い、誤薬の予防に繋がっています。体調に変化があればDrに連絡できる環境を作っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の盛り付け、洗濯干し等、家事を出来る範囲でやって頂き、気分転換に散歩や外気浴の機会を多く設けられる業務作りに努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過の為、例年より減ってはいるものの、毎日の散歩を基本とし、5感で季節を感じられるよう、お花見や紫陽花、みかん狩り等の企画を実施しています。	悪天候日以外は、毎日感染予防を図り、近隣の散歩で季節感や外気浴を図っています。一人ひとりや複数などその時々で対応しています。車で人混みの少ない公園に桜や紫陽花見物、ミカン狩りなども実施しています。感染症に考慮し、食事なしで法事の参加など家族協力の外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望で財布やお金を所持されていますが、個別の支払いはホームで立替え、ご家族へ請求という流れになっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々で携帯電話を持たれ、希望があればホーム電話を使用されています。ご家族が往復ハガキで送ってくださることもあり、返信の支援をしています。年末には年賀ハガキを用意し、ご家族への連絡手段の一つとして利用しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングにはレクで作成した季節の貼り絵等を壁に飾り楽しんでいただいています。テレビを高い位置に設置しどの位置からも観られるよう工夫しています。	毎週雑務員が、ホーム内の清掃、季節の花のガーデニングを実施、清潔と寛げる環境になるよう配慮しています。サーキュレーターやエアコン、換気で快適な温度・湿度調整をしています。ソファやテレビの位置にも気を付けています。安全対策にも注意し、居心地の良い環境整備をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのテーブルは気の合った方や、介助が必要な方等、考えながら配置しています。窓外にはウッドデッキがあり、手前にソファを置き、一人でゆったりと過ごすこともみんなでお話でき、それぞれのペースで過ごさせていただけよう考えています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンスや椅子をもお持ちいただいたり、テレビや仏壇など居心地が良くなるよう、ご本人、ご家族と考え配置しています。	火気、刃物の持ち込み以外馴染みの家具や写真、作品など家族と相談し今までの生活空間の継続を図っています。職員は希望に応じ入居者と一緒に掃除や片づけをしています。居室担当者が衣替えやエアコン掃除などもしています。居室内でもテレビを見たり、好きな時間を過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	毎月のユニット会議で個々の現状を確認し、ケアや環境の見直しをしています。申し送りノート等利用し、細かい情報を共有し、その時々合った支援ができるよう努めています。		

事業所名	グループホーム いずみ別荘2
ユニット名	かめ

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体と事業所理念をホーム玄関+それぞれのフロア内事務所に掲示している。方向性に迷い等できた時には理念の再確認をし、職員全体で共有し実践に繋がられるよう勤めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加しているが、コロナ禍であり接触しての付き合いはできていない。散歩に出かけた際に近隣の方と挨拶をしたり少し会話する程度になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為、地域の方との交流事態を自粛している為、地域貢献や支援の方法等は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、書面開催として行っている。関係各位に報告書を送り、電話やFAXを通じ、質問等を受け付けている。そこで頂いた意見等をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	電話やメールを通じて聞いたり、手続き等で窓口に行った際にアドバイスを頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	ユニット会議にて入居者個々のケアを確認する際に身体拘束についても話し合っている。話し方や接し方、ケアの仕方を職員同士で確認し合うようにしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	実際に起きた介護関連の報道等に留意し、問題点や経緯等を調べ、それを元に勉強会を行いたいが、未だ行えていない。高齢者虐待防止法の変更も度々ある為、変更についていけるよう研修等に積極的に参加する必要がある。職員間での相互確認はできている、虐待に関してのアンケートで個々の認識等把握し、個々に合った勉強会を行う必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご本人の尊厳を保ち、尊重するためにも制度への理解に努める必要がある。コロナ過が落ち着き次第、研修等に積極的に行き、内部研修にて職員全体で周知するよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	丁寧な説明に努め、疑問等あればいつでも（電話でも）連絡を受け付けている。不安や疑問点がなくなり、十分納得されてからの契約を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内にご意見箱を設置しているが、コロナ禍でホーム内に入ることはほぼなくなっている。運営推進会議報告書にて運営状況を伝え、電話やLINEにて連絡や要望を頂ける環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行っているユニット会議にて気づきや改善すべき点等の意見を出し合い、運営に反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が精神的、体力的な疲弊なく、業務に対するストレスを軽減できるよう、皆の意見を元に働きやすい環境作りに努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人だけでなく、スタッフ全員にあった研修や本人が望む講習会等への参加を叶え、職員全体の向上心を高めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人内事業所と感染対策や行事の範囲等の意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新しく入居された利用者の立場に立って、不安を取り除き、安心して生活できるよう信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	的外れな対応にならないよう、ご本人、ご家族の要望をしっかりと捉え、不安等に配慮しながらいい関係性が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族が求めているニーズをしっかりと捉え、見極め、自治体等のネットワークを活用し希望する生活の実現に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者の「こうありたい」とい思いや不安を察知し、互いに支え合う関係づくりを心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の悩みや希望を受け止め、情報を共有し、ご利用者を共に支えていく関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人のこれまでの関わり合いを継続できるよう、生活習慣や交友関係を尊重し、支援するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	集団生活の中で一人一人孤立しないよう、場面作りをしながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、必要に応じ、相談や支援を行うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの意向が違う現状で、なにが本人にとってやりがいがあるか等、ご家族からの情報や皆で話し合い、思いをくみ取りながら支援するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーや生活の場面で、今までは出来ていたことが出来なくなっていることがあるので、柔軟な支援ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活のスタイルは施設側で決めている。今後は本人が自発的に活動できるようなことを模索しながら行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で意見交換を行っている。様々な課題とケアのあり方について意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや工夫などの共有ができていない事が多いので、共有する大切さを考える必要あり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、要望を軸に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の中で地域交流ができていない中で、毎日の散歩時に地域の方たちとの挨拶を心掛けている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回の定期健診に加え、臨時受診や電話による受診対応も出来る為、支援がしやすい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	担当看護師による毎週の訪問看護にて、相談しやすい関係性であり、細やかな助言ももらっている。24時間医療面の窓口となり、迅速な対応に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院にて情報共有しやすく、状態に応じ家族や医師含め話し合いできる時間を作り、退院支援に繋げている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態変化に応じ、医療面での協力範囲含め、施設での支援計画を検討し、医師を含めた家族との話し合いの時間を作り、丁寧な説明を心掛けた支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には、冷静な判断が出来るように、他フロアを含めた職員間でのヘルプが入れるように努めている。救命講習等、消防署の協力も得られている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回以上の避難訓練を実施している。利用者個々に合わせた避難経路や手段を確認し合い、有事の際は混乱なくスムーズに避難できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常生活では笑顔が引き出せる様に努め、介護が必要な時は個人の自尊心に配慮した声掛けや誘導を心掛け対応するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の判断能力を見極め、本人の意思表示しやすい話しかけや見守りを行い、混乱せず穏やかな日常生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースに合わせた支援を心掛けているが、共同生活の中でバランスを考えながら、無理のない範囲で合わせてもらっている面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	それぞれの好みを尊重しつつ、季節に合わせた衣類の調整や整容の促し等、さりげない声かけを心掛け、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備や盛り付け等、ご入居者と一緒に行くことで食事が楽しみになるよう支援し、月一回程度食レクとして好みの献立を一緒に考え提供するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量はそれぞれに合わせ提供し、嚥下の状態等把握し、副菜等は食べやすいよう一口サイズや刻み等を行っている。一日の食事+水分摂取量を把握し、水分が取れていない方には声かけによる促しや、好きな飲み物等提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	それぞれの状態を把握し、磨き残しが多い方は最後職員がお手伝いしている。うがいが厳しい方や嚥下が弱っている方へはスポンジや口腔用ガーゼを使用し口腔内の清潔が保てるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を作成し、自立にて行える方、介助が必要な方等、それぞれの排泄パターンの把握に努め、個々の能力やADLに応じた排泄援助を行い、自立に向かえるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排泄状況を記録に取り、便秘気味な方には乳製品の提供や、無理のない範囲で運動を促したりしている。トイレ時に腹部マッサージをしたりと常に排便状況を意識するよう務めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	それぞれの希望する日や時間に合わせられていないのが現状。入浴の際は個々のペースでリラックスできるように支援している。個々の状態に合わせて、一部介助や全介助にて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促すよう支援し、個々のペースに合わせ休息をとってもらっている。夜間、寝付けない時は飲み物を差し上げたり、対話対応等、その時々状況に応じ良眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の目的、副作用等、皆が簡単に確認できるよう、現在の処方箋と過去の処方箋とに分けファイリングしている。特に気を付けてもらいたい点等は申し送りノートを通し周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の盛り付けや洗濯干しや畳み等、個々の出来る事ややりたいことを見極め、表情から汲み取り気分転換を促したり等、できる限りの支援を行っている。なにかお願い事をした際は必ず感謝の言葉を伝えるよう心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候が悪くなければ毎日散歩に行っている。また季節の桜や紫陽花等を観るに、少し遠出しお連れすることもあるが、コロナ禍の為、人で混みそうな場所にはお連れできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お財布やお金をご自分で管理することで安心される方や、居室内でどこに置いたか忘れてしまい混乱してしまう方等いらっしゃるので、個々に合わせ対応するよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば家族や友人に電話できるようにしている。コロナ禍の為会うことが難しい今はタブレットを利用し、LINEを使ったビデオ通話にて連絡が取れるよう支援している。年末にはご家族に年賀状を送る支援もしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活をしていて不快に感じないように、常に清潔を保つ為に清掃員に専門的な清掃をお願いしている。観葉植物やソファ、サーキュレーター等、危険の無いよう配置し、全員が観れるようテレビの高さを上げたり、皆で作った季節を感じられる壁飾りを飾ったりし、居心地良く過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席はフロア全体のバランスを考慮配置し、それぞれが気持ちよく生活できるよう努めている。ソファの位置やテレビの高さを変えることで、自由に移動でき、独りになれる環境が作れるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分らしく過ごせる様、入居時に新しい物ではなく馴染みの使い慣れた物を用意してもらうよう伝えている。ご自分の部屋で安心してリラックスできるよう家族を交えた居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	間違いやすい箇所には表示を行い、個々で気を付けられる環境を作るよう努め、時計を多く配置し、何時でも時間が分かるよう工夫し、少しでも自立した生活が送れるよう支援している。		

2022年度

事業所名 グループホーム いずみ別荘2
 作成日： 2023年 3月 7日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「ホーム理念」はあるものの、全体的に小さく、法人理念と一緒にあってわかりづらい。	「法人理念、ホーム理念」をわかりやすい形で掲示する。	法人理念とホーム理念を分け、それぞれの理念がわかりやすく見えるよう、レイアウトを見直す。掲示場所も再検討する。	3ヶ月
2	48	ご利用者全体の重度化に伴い、ご利用者に携わる業務が増え、職員とご利用者とのコミュニケーション時間が減ってしまった。	職員とご利用者間でのコミュニケーション時間を増やし、フロア全体のQOL向上を目指す。	業務内容を見直し、手すりの消毒やリビングの掃除など夜間帯でできることは夜間帯に持っていき、日中、ご利用者に携われる時間を増やしていく。家事のお手伝い等できることは積極的にお願いし、ご利用者を巻き込んだ家事を意識していく。	6ヶ月
3	33	終末期、看取りの現場対応は問題なくできているが、加算申請等の事務的な確認ができていない。	「終末期、看取り」に関する指針を整備する。	法人との間でスムーズな連携が取れるよう役割分担の再確認する。	6ヶ月
4					ヶ月